

2023年5月21日（日）昇天祭主日朝礼拝説教

『天に昇る』井上隆晶牧師

使徒言行録1章 3～11節、ルカ福音書24章 44～53節

### ①【神の右の座に着く】

イエス様は復活してから40日にわたって弟子たちに現れ、御自分が生きていることを証明され、聖霊を待つように指示されてから天に昇られました。それを昇天といいます。葬式で「召天」という言葉を使いますが字が違い、そちらは死ぬという意味です。「昇天」とはキリストが地上での救いの業を終えられ、元々おられた神の座に戻られたことを言います。使徒言行録に「イエスは弟子たちが見ているうちに、天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。」（使徒1:10）とあります。主が弟子たちにわざわざ昇天される姿を見せられたのには意味があります。主は昇天によって、弟子たちに御自分が神であることと、天から聖霊を送るという約束に希望を持つことを教えられたのです。マルコ福音書には「主イエスは、弟子たちに話した後、天に上げられ、神の右の座に着かれた。」

（マルコ16:19）とあり、使徒信条でも「天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり」と告白されています。誰も神様の右の座にイエス様が着かれたのを見た者はいません（ステファノは見たが）から、これは教会の信仰告白です。イエス様が神の右の座に座ったというのは、イエス様は父なる神と同座なる神であり、裁きの全権を委ねられていることを意味しています。「父は誰をも裁かず、裁きは一切子に任せておられる。」（ヨハネ5:22）これはユダヤ教やイスラム教では決してありえないことです。彼らのメシアは人であって神ではないからです。私たちの礼拝堂には、キリストが神として父なる神の右に座しておられる絵があります。私たちはこの絵を仰ぎ、天上におられる三位一体の神に祈るのです。

### ②【キリストは見えなくても私たちの内におられ、又教会という姿でおられる】

天使はいいました。「ガリラヤの人たち、なぜ、天を見上げて立っているのか。あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる。」（11節）天使が「なぜ」と聞いたのには意味があります。天使は天を見上げるのではなく、地上を見なさいと言っているのです。イエス様は人の目には見えなくなっただけで、共にいないのではありません。イエス様自身「私は世の終わりまでいつもあなたがたと共にいる」（マタイ28:20）といっているからです。4世紀のアウグスティヌスはこう言っています。

●「主は私たちの所に降って来られた時、天を去ったわけではなく、再び天に昇られた時も、私たちから身を引かれたのではありません。」

共におられるのですが、その有り様が変わったのです。今までは「肉体の姿」で共におられたのですが、これからは「教会という姿」で共にいて下さいます。週報

の表紙のアイコンがそれを教えています。昇天したキリストと、直立不動の姿をもって祈りのポーズを取るマリアは一直線で描かれています。マリアは教会のひな形です。イエス様が神でありながら、地上では肉体を取って働かれたように、教会という姿で今は働かれるのです。教会に来るとキリストに触れるためのあらゆるものがあります。聖書、聖餐、讃美歌、アイコン、十字架、祭壇、ともし火、香、祈り、祭服。教会にはキリストの霊が満ちており、教会はキリストの体と言われます。

また、イエス様は「私を愛する人は、私の言葉を守る。私の父はその人を愛され、父と私とはその人のところに行き、一緒に住む」(ヨハネ 14:23)と言われました。それは聖霊が降ることによって実現しました。三位一体の神は分離できないので、聖霊が人に臨む時、御子と御父も霊的に共に来られます。今度は聖霊と共に私たちの中に住み、私たちと一体になって、前よりも一層近く共にいてくださるのです。私たちは外側は一人に見えても、実は二人なのです。イエス様は見えないだけで、私たちの内におられます。

### ③【キリストの昇天は、あなたの昇天であること】

父と子と聖霊の三位一体は決して分離しませんから、キリストが天から降り人間の肉体を取って地上におられた時も、神性においては父から離れず天におられました。だから主が昇天されたといっても、もともと神性は父なる神と共に天におられたのですから、正確に言うなら、主はこの日、受け取られた人間性を天に引き上げられ、父なる神の右に座させたということになるのです。昔の祈祷文にもこう書かれています。

●「キリストよ、あなたは父のふところから離れず、人になって地上の者と共に住まい、今オリーブ山から栄光のうちに天に昇り、われらの墮落した人間性を憐れみによって昇らせ、父と共に宝座に座せました。」

これこそキリストがなされた救いの目的でした。すなわち、人間を天に引き上げるために、この方は地に降られたのです。だからキリストの昇天はあなたの昇天です。洗礼を受けてあなたはキリストの体となりました。頭であるキリストが天に上がる時、その肢体であるあなたも共に上げられたのです。彼はもともとおられた所に昇るのですが、私たちは恵みによって引き上げられたのです。昇天はキリストの救いの最後の業を教えてください。よく「十字架によって救われた」という人がいますが、それは救いの一部に過ぎません。キリストの受肉、十字架、復活、昇天というすべての過程によって人間全体が救われるのです。キリストの受肉は救いの始まりであり、十字架によって罪を取り除き、復活によって死を取り除き、昇天によって人間性を天に引き上げ、完全に人間の救いが完成したのです。この一体の神秘によって人の救いは完成します。私たちは自分の力では、天国に昇れません。降ってこられた方、すなわちキリストと一つに結ばれ、キリストによって神の国に昇るのです。キリスト教の救いとはただ罪が赦されるだけでは

なく、私たちの全体が救われ、癒され、神と永遠に共に生きることなのです。讚美歌 337 の 5 番に「やがてわれらも、み国に昇り」とあり、いつの日か私たちも天に昇りますが、キリストが私の中に住んでおられるなら、既にあなたは天にいるのと同じなのです。

●先日、大阪YWCA福祉会の前々理事長のTさんにお会いしました。お連れ合い様が天に召されたそうです。最後まで家で介護をなされ、家族で最後を看取ることができました。夫さんは亡くなる前に「僕は君と一緒に生涯を過ごすことが出来て幸せだった」といわれて旅立たれたそうです。Tさんはこう言うておられました。「目の前で死を体験して、死の尊厳・神秘を見ました。もう何も思い起こすことはありません。悲しいと言うより、感謝です。」

聖トマス大学の高木慶子シスターは末期の患者さんの「心と魂のケア」をされてきましたが、その目的は患者さんが自分自身の人生を肯定できるように準備することで、三つの言葉を残していただくことだと言っています。その三つとは、

- ①感謝＝ありがとうございました。(恵みを見れる目)
- ②謝罪＝ごめんなさい。(和解)
- ③再会＝また、会いましょう(希望)

キリスト教徒の希望とは、自分は決して死なないこと、またキリストのように変えられることを知っていることです。だから「また、会いましょう」と言えるのです。キリスト教はこの三つをすべて準備してくれます。

キリストと聖霊があなたの中にお住まいになられて何年になりますか？来世では永遠にあなたの中にお住まいになられます。この世ではその練習をされているのだと教父たちは言っています。こんな罪深い者をよく耐え、よく共にいてくださるなあと思います。宝物が入れてある入れ物は、それがどんなに古く、惨めなものでも、共に栄光に与ることができます。同じように地である私の中にキリストお住まいになったので、私は引き上げられ、栄光ある者となったのです。上智大学のアルフォンス・ディーケン先生は「雨が降ったらハレルヤ！晴れたらアーメン！」と言っていつもユーモアに溢れておられました。上手いこうがいくまいが、晴れていようと雨であろうが、どんな時も神キリストは私と共におられ、私の中で生きて働いておられると信じましょう。そして三つのもの「感謝、謝罪、再会」を日々、準備してゆく者となりましょう。